



浜松観光ボランティアガイドの会

講演会「遠江国分寺」県西部ボランティアガイド連絡協議会研修会

今年度の県西部ボランティアガイド連絡協議会の研修会は、11月11日(火)、磐田市健康福祉会館を主会場にして実施されました。浜松からは35名の出席がありました。



安藤先生の講演を熱心に聞き入る会員
りました。

今研修会で知ったこと、感じたことは多々あります、私が特に興味を持ったのは、国分寺跡にあったとされる七重の塔です。67mもの高さがあったとのこと（これは国分寺跡に近接する電波塔の高さとほぼ同じ）。重機がない奈良の時代によくも造り上げたものです。当時の設計・石工・木工・壁土師達の技術の高さに改めて驚嘆しました。

奈良時代の最高権力者は天皇で、土地も人も個人の所有ではなく国家のものと考えられていた時代だったにせよ、天皇に莫大なエネルギーを要する国分寺創建を決意させた背景は何か、改めて考えさせられました。

安藤先生によれば、①穀物の不作が続いたこと、②藤原広嗣が乱を起こしたこと、③当時の1/3の国民が罹患・病没したといわれる天然痘の猛威に襲われたことなど、社会不安が蔓延する中、仏教の力を借りてこれらを取り除こうとした、とのことです。

現地に行って自分の目で見て、現地の先達の話を聞くことで得られるものはとても多いと思います。今回は奈良の時代、往時の社会や技術についてイメージを膨らませることができました。「磐田観光ボランティアふれあいガイドの会」の皆様には、研修会の準備・当日の運営全般にわたり細

やかなご配慮
をいただきま
した。

平成10年に
結成され、現
在19名の皆様
で活動されて
いる磐田観光
ボランティア
ふれあいガイドの会が今後も益々発展され
ますことを祈念申し上げ、お礼かたがた研修報告といた
します。



副会長 小池孝幸

富士山の日 記念ウォーク

頭陀寺周辺を再発見



令和8年 NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟！」の兄 豊臣秀吉が少年の頃
奉公した頭陀寺城址(松下屋敷跡)と秀吉のゆかりの地を散策します

令和8年 2月 22日 (日) 10:00~12:00 ≪受付時間 9:30

※悪天候の場合には翌日に変更 予備日：2月 23日 (月)

【集合場所】頭陀寺山門前(中央区頭陀寺 214)

【バス利用】浜松駅 8番乗り場 90+96 番線掛塚方面 8分 頭陀寺下車徒歩5分

※駐車場が少ないため公共交通機関をご利用ください

【散策】頭陀寺城址周辺の歴史的な史蹟を散策してから、
頭陀寺にてご住職より頭陀寺城の歴史等のお話を伺います



【参加費】無料

【持ち物】防寒対策グッズ(帽子や手袋など)、飲料水、雨具

【募集人員】60名 事前申込みが必要(募集人員を越えた場合は抽選)

【申込期間】令和8年(2026) 2月 10日(火) 必着

※抽選結果は2月 17日(火)までにご連絡します

【申込方法】① インターネット <https://forms.gle/PrzpQqo77fj6BcC66>

② 往復はがき

住所、氏名、連絡先(電話・メール等)を明記し下記宛先まで

〒432-8014 浜松市中央区鹿谷町 25-10

尾ヶ崖資料館 気付 浜松観光ボランティアガイドの会 宛

【問合せ先】主 催: 浜松観光ボランティアガイドの会

電 話: 053-456-1303(受付時間 9:00~17:00)

メールアドレス: mail@hama-svg.jp

ホームページ: <https://www.hama-svg.jp/>

共 催: 静岡県、浜松市



申込用紙
QRコード



はままつ案内人

東・北ブロックミニ研修 岩村城と苗木城バスツアー

11月19日(水)、今季一番の冷え込みの中、東・北ブロックのミニ研修が行われました。東ブロック15名、北ブロック16名、他ブロックからは西4名、南1名、中8名の総勢44名が参加しました。皆さん寒さ対策をしてそれぞれの集合場所に集まりバスに乗り込み出発。

当日は、予想に反して風もなく最高の好天に恵まれ黄色や真っ赤に燃えるような素晴らしい紅葉の中、絶好の研修日和となりました。行きのバスでは、目的地の苗木城と岩村城について、戸塚さんと桶田さん、27期生の大場さんと小林さんによる事前説明がありました。最初の目的地である苗木城には、渋滞のため30分遅れで到着しました。

駐車場には、すでに3人のボランティアガイドの方が待機されており、私たちは3班に分かれて案内をしていただきました。苗木遠山資料館の見学は省き、ガイドの方の説明を聞きながら足早に天守台を目指しました。

苗木城の特徴としては、天然の巨岩などを利用した建築で、大矢倉では岩を抱きかかえるように積まれた石垣がありました。馬洗岩といわれる周囲45mの大きな自然石があり、敵に攻められ水の



足軽長屋跡から苗木城天守を望む

手を切られた時に、この岩の上に馬を乗せ、米で馬を洗い、敵を欺いたとの由来があるそうです。

恵那峡で昼食をとった後、次の岩村城に向かいました。岩村城は備中松山城、高取城と並ぶ日本



岩村藩主邸跡にて集合写真

三大山城の一つ。標高717mの山頂にあり、非常に険しい地形を利用した堅固な山城でした。私たちもこの石段石畳をガイドの方の案内を聞きながら、やっとの思いで本丸跡まで辿り着きました。

今回の研修でブロックを超えての交流ができること、他観光地のボランティアガイドのやり方など参考になり、大変充実したミニ研修となりました。

東ブロック 鈴木正裕

南・中ブロックミニ研修

秀吉ゆかりの地を巡る

11月12日(水)、南ブロック・中ブロック合同によるミニ研修「参野町・頭陀寺町の歴史にふれる～松下家とその歴史を中心に～」が開催され、32名の参加を得て無事に実施することができました。今回の研修コースは、津毛利神社→旧松下屋敷跡→頭陀寺→鎌研ぎ池→西伝寺・法然塚・西光尼の墓→足利義教の供養塔（希望者は目刺橋まで）でした。

朝9時30分に浜松駅南ロータリーへ集合し、相乗りで最初の目的地「津毛利神社」へ向かいました。研修会場では、神社常任顧問伊藤さんが制作しYouTubeに公開している「神からの豆知識」の解説ビデオを大型テレビで鑑賞しました。学芸員による分かりやすい歴史説明と落ち着いた女性ナレーションにより、歴史に詳しくない参加者でも理解しやすい内容でした。神社所有の「王の舞面」は、県指定文化財ですが、源頼朝が鶴岡八幡宮に奉納した舞面よりも優れたものだそうです。鑑賞

後は、歴史ある明神鳥居に掲げられた表札、神域と俗界を区切る隨神門、稻妻の形を表す紙垂(しで)、そして邪氣を祓う狛犬(口を開く「阿」、閉じる「吽」は他の神社とは逆に配置)などを見学しました。境内には12社 法然ゆかりのイブキの摂社も祀っていました。

昼食後、旧松下屋敷跡（頭陀寺第一公園）に集合して、頭陀寺・鎌研ぎ池・西伝寺へと向かいました。鎌研ぎ池には、木下藤吉郎（のちの豊臣秀吉）が鎌を研ぎ、試し切りに葦の片側だけを切ったため、それ以降「片葉の葦」が生えるようになったという興味深い伝説が残されています。池の西側の道は古道（薬師道）だそうです。

西伝寺には樹齢約800年といわれる巨木イブキがあり、江戸時代、寺が火災に遭って建物が焼失した際にできた黒い焦げ跡が幹の北側に残っていました。歴史の流れを現地で感じられる有意義な研修となりました。



王の舞面



中ブロック 河合尋之

若き頃の豊臣秀吉ゆかりの地(遠江)ー続編ー

会報 10月号では、鎌研池と目刺橋の逸話について紹介しました。今回は、その続編として頭陀寺と頭陀寺城について話をしたいと思います。

【頭陀寺】

高野山真言宗、山号は青林山、本尊は薬師如来、浜松で一番古い寺。西暦 680 年頃の海中出現仏。文武天



頭陀寺

皇の大宝 3 年(703)に開創された勅願寺。貞觀 5 年(863)清和天皇は頭陀寺を遠江国の定額寺(国家に一定数を限った特別な寺)としました。平安時代になると頭陀寺は、今の津毛利神社とともに荘園の管理を任せられるようになりました。頭陀寺の歴代住職は、都からやってきて職に就き、その後都に戻って大きな寺の要職に就くという、いわゆる出世寺となりました。

室町時代になると頭陀寺は今川家の庇護(ひご)のもとで繁栄していきました。永祿 7 年(1564)引間城主飯尾氏と今川氏の合戦により、頭陀寺城とともに 12 坊あった当寺が消失し、その際、本尊や寺宝を運び出したといわれています。

◎頭陀寺に残る主な文書

○天文 8 年(1539)2 月【今川義元判物】

※判物とは、所領の安堵を行なった文書のこと
義元が地頭不入などの法度を出しています。

○永祿 10 年(1567)3 月【今川氏真判物】

焼失した頭陀寺に 160 貢文余りを与えました。

○天正 18 年(1590)正月【豊臣秀吉禁制】

※禁制とは、禁止事項を公示する文書のこと
小田原への出陣を前に、乱暴狼藉や放火を禁ずる旨を出しています。

○天正 18 年(1590)12 月【豊臣秀吉寺領寄附朱印状寫】

関白となった秀吉が頭陀寺に寺領 200 石と朱印状を与えました。

○慶長 8 年(1603)9 月【徳川家康寺領寄附朱印状寫】

将軍となった家康が頭陀寺に寺領 200 石を与えました。

○【歴代の徳川將軍による寺領寄附朱印状寫】

15 代慶喜を除いた 14 通の朱印状が頭陀寺に残っています。

廢仏毀(き)釈で甚大な被害を受け、太平洋戦争では艦砲射撃や B29 の空襲を受けました。ところが家康から授けられた弘法大師の像は無事に残り、難除大師として頭陀寺に祀られています。頭陀寺は時の権力者から庇護された寺院であったことがわかりますね。

【松下家と頭陀寺城(松下屋敷跡)】

頭陀寺の南側に頭陀寺第一公園があります。この場所に頭陀寺城(松下屋敷)がありました。2000 年と 2015 年の 2 度にわたって発掘調査がおこなわれ、建物の礎石や庭園の庭、さらに屋敷を囲む土塁や堀など(100m四方の館)が確認されました。また、「かわらけ」と呼ぶ素焼きの皿や常滑焼や瀬戸製陶器なども見つかりました。

当時(戦国末期)の浜松は海がかなり陸に入り込んでおり、松下屋敷の東南には天竜川の本流(総別川)が流れています。頭陀寺は川勾(かわわ)荘を管

理した有力寺院で、近くには市場もありにぎわっていたようです。このようなことから、松下氏は土豪というより水軍を



松下屋敷跡

持つ武将で経済的にも豊かであったと思われます。秀吉はおそらく、街道筋に近く多くの情報拠点であった頭陀寺城に目を付け、松下氏に奉公先を決めたのではないかといわれています。

○松下ゆかりの人物

◇松下之綱 松下といえばこの人です。天正 2 年(1574)秀吉の家来となり。同 11 年(1583)に 3000 石、同 15 年(1587)に従五位下石見守に任じられ 6000 石を与えられました。天正 18 年(1590)には遠江の久野に 1 万 6000 石の所領を与えられ、城持ち大名となりました。

その他に、之綱の姉は雄踏の中村家に嫁ぎ、秀吉が嫁入り道具を持っていったという言い伝えがあります。妹は夏目吉信に嫁ぎ、娘のおりんの方は柳生家(但馬守宗矩)に嫁いであの剣豪の柳生十兵衛を生んでいます。また、賤ヶ岳の七本槍で有名な加藤嘉明の娘が、之綱の長男である重綱に嫁いでいます。之綱の親戚に松下清景と常慶の兄弟がおり、清景は井伊直政の父である井伊直親が今川に殺されたあとに、幼い虎松(直政)の母親と再婚しました。

常慶は家康の身辺警護と料理番を任されるようになり、その子孫は幕府の要職である火付盗賊改に就いています。



頭陀寺に続く道

松下氏は、明治 3 年まで頭陀寺に住んでいました。頭陀寺に続くこの道は、およそ 470 年前秀吉も家康も通った道! そう考えると歴史ロマンを感じますね。

西ブロックミニ研修 姫街道ウォーキング～気賀宿を歩く～

前日から雨模様の天候ながら、10月25日(土)に天竜浜名湖鉄道気賀駅に集まったのは、総勢17名(西ブロック14、北2、東1)の会員たち。



天浜線気賀駅 改札口前

まずは昔の気賀関所、陣屋の南側にあたる要害堀へ。気賀四ツ角から西に伸びる防備のための堀で、現在は遊歩道的に整備されています。その堀に沿って行くと赤池橋の袂にあるのが、赤池様公園です。津波により漂着した御神体のことや地元の祇園祭のことについて、石造レリーフのあるきれいに整備されたこの公園で説明を聞きました。

続いて気賀関所本番所から、坂を上って気賀近

藤家陣屋跡を過ぎ、吉野家旅館を左に見て、細江神社に行きました。境内には蘭草(いぐさ)神社があり、近藤用隨(もちゆき)を祀っています。

そして、姫街道と銅鐸の歴史資料館を見学しました。館内1階では、蘭草の栽培がどのように進められたか、実際の生産、加工、販売などをることができます。2階では銅鐸を学び、この地域の弥生時代に思いを馳せる時間となりました。特別展示の木造阿弥陀如来坐像(市指定有形文化財で展示は令和8年3月31日まで)もあります。

最後は、姫街道に戻り本陣前公園から西榎形を見て獄門瞬(なわて)へ。堀川城の戦いで捕らえられた者が処刑されたという場所に案内板と石碑があり、皆さん見入っていました。

今回の研修は天候に恵まれず予定をかなりカットして、約4kmのウォーキングは12時前に解散となりました。次の機会には、予定していた姫街道古道と呼べる

峠を越えた証拠の木札

ようないにしえの石畳を歩きたいものです。

広報部 古山貴朗(西ブロック)



11月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

6日 木	浜松市立富塚中学校
8日 土	丸勇交通サービス(株)
8日 土	大人の社会科見学ツアー
9日 日	JA共済自動車指定工場協力会
15日 土	19日(水), 20日(木) 阪急交通社
15日 土	長野県植松町立植松小学校
26日 水	浜松市立中部小学校
26日 水	名古屋商工協同組合協会
28日 金	柘木ダイハツ販売(株)
29日 土	知多半島ケーブルネットワーク(株)
30日 日	楽歩の会

《犀ヶ崖資料館》

18名	14日 金 浜松市立赤佐小学校	35名
11名	28日 金 静岡大学付属浜松小学校	32名
7名	《浜松まつり会館》	
12名	15日 土 春日部市庄和大凧文化保存会	27名
計 59名	17日 月 衣笠校区老人会(愛知県田原市)	25名
15名	20日 木 1962会(磐田市)	14名
13名	28日 金 浜松市立南の星小学校	42名
25名	《ふるさと講座》	
17名	4日 火 浜松市立中川小学校	52名
20名	《同行ガイド》	
30名	30日 日 C3同級会(磐田市)	17名

はままつ案内人会報 281号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中央区元城町100-2(浜松城内)
TEL 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ <https://www.hama-svg.jp/>

はままつ案内人

検索

